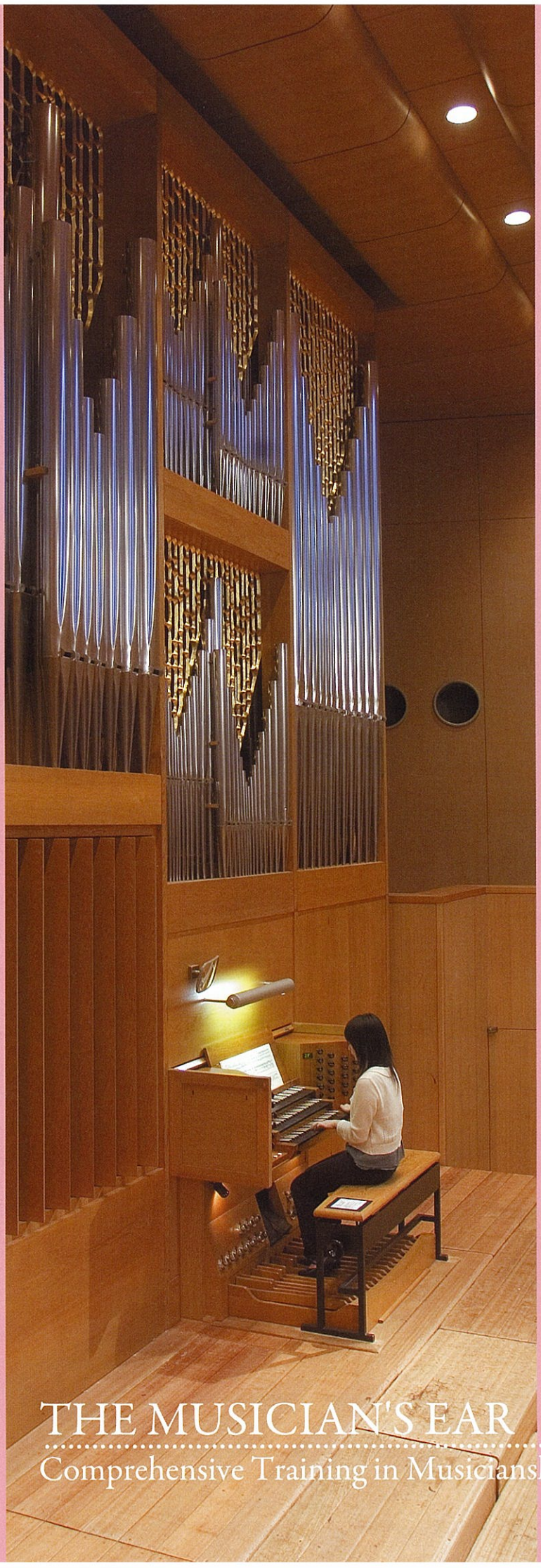
Elisabeth
University of Music

平成19年度文部科学省
「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」

〈音楽家の耳〉トレーニング教育法の開発

—総合的音楽能力育成を目指す
教育システムの開発と実践—



THE MUSICIAN'S EAR
Comprehensive Training in Musicianship

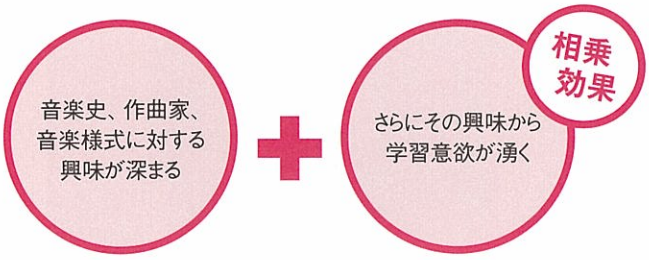
エリザベト音楽大学

「〈音楽家の耳〉トレーニング」教育法の特色

特色1 中世・ルネサンスから現代に至る音楽作品を教材として使用

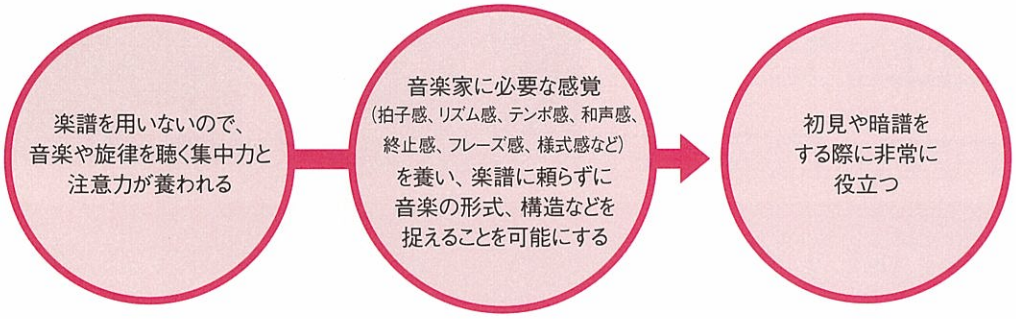
中世・ルネサンスから現代に至る音楽作品を用いて、音程、音階、和声進行、形式、構造などの理論を体験的に学習します。

本システムで使用する課題は、そのほとんどが実際の音楽作品の中から採用されています。音程とリズムの練習のためだけに作られた無味乾燥な課題ではなく、優れた音楽作品を用い、耳のトレーニングを行うことによって、音楽全体を捉える力をつけます。
また様々な音楽に親しむことによって、学習者の音楽性を豊かにし、同時に音楽様式をも身につけます。



特色2 楽譜を用いないトレーニング（オーラルトレーニング Aural Training）を重視

楽譜を用いずに耳を通して「感覚」を養うトレーニングを数多く行います。



音楽家にとって必要な「耳」とは、音の高さやリズム、そして音楽の表情や流れを「瞬間的に」捉えることができる耳です。音楽を「耳」で捉えるためには、拍子感、リズム感、テンポ感、フレーズ感、和声感、終止感、様式感などの「感覚」が必要です。そこで、視唱・聴音などの楽譜の読み書きの練習のみに偏るのではなく、楽譜を用いずに「耳」を通して「感覚」を養うトレーニングを行います。

特色3 初心者から専門家のレベルまで網羅

子どもにも対応可能な初歩から大学卒業以上の高度なレベルに至る段階的な教育法。

- グレード1~2　最も基礎的な段階
- グレード3~5　初級から中級程度
- グレード6~10　中級から上級
- グレード11~14　かなり高度な段階

＊グレード５または６程度が、音楽大学入学時に必要な能力に匹敵する段階であると考えられます。

また、音楽経験に関わらず、様々なタイプの学習者にも対応可能です。

楽譜を用いないトレーニングは耳のみで音楽を捉えるため、音楽経験に関わらず、様々なタイプの学習者に対応可能

理論の学習、楽譜の読み書きを経験していない学習者
↓
音楽を聴くことから始めて、感覚的に捉えたことを後から理論付けることにより、楽譜の読み書き、理論的学習につなげることが可能

理論と楽譜の読み書きを中心に学んできた学習者
↓
楽譜を用いずに集中力と注意力を持って音楽を聴くことにより、感覚、つまり総合的音楽能力を養い、これまでに学習した理論とその感覚を結びつけることが可能

音楽家のために必要な“耳”を養成し、総合的音楽能力の育成を目指す教育システムです。

この取組は、長年、音楽基礎教育として実施されてきたソルフェージュ教育を発展させ、日本および諸外国での教育研究の成果を活用して、音楽の実践に必要な総合的音楽能力の育成を目指す教育システム(=〈音楽家の耳〉トレーニング)を新たに開発し、平成14年4月以降、音楽学部の「ソルフェージュ」および「音楽理論」他の授業科目において実践してきたものです。ソルフェージュと音楽理論を別々に学ぶだけではなく、一体化させて学ぶことによって、音楽の表情や形式、様式までも耳で捉えられる総合的な能力を育成します。中世から現代までの実際の音楽作品を用い、「瞬間的に音を捉える」能力の育成を目指し、音楽を「耳」で捉えてすぐに反応する「楽譜を用いないトレーニング」を数多く行います。単に音程、リズムだけではなく、音楽の表情や構造・形式、様式までも「耳」で瞬時に捉え、即座に反応できるように訓練します。子どもにも対応可能な初歩から、大学以上の高度な段階に至る14グレードに分かれた本システムの開発に際しては、初めに基本となる教科書を執筆し、その後『指導の手引き』、補助教材、DVD、CD等を順次作成して、普及活動をも行ってきました。

エリザベト音楽大学編

『〈音楽家の耳〉トレーニング』(Part1・Part2)

春秋社 平成14年7月

2008年秋
CD付増補版
テキスト
刊行予定

学習者および指導者が、どのようにこの教育システムに取り組むべきかをわかりやく解説した手引き書、DVD、CDを制作し、無償で配布。

[補助教材]

(左より) 『〈音楽家の耳〉トレーニング 指導の手引き』
『〈音楽家の耳〉トレーニング 指導の手引き 付録』
『〈音楽家の耳〉トレーニング 項目別学習・指導の手引きII』
『〈音楽家の耳〉トレーニング 視唱の手引き』
『〈音楽家の耳〉トレーニング 音楽の表情と形式の理解の手引き』
『〈音楽家の耳〉トレーニング [課題実施体験DVD]』
『〈音楽家の耳〉トレーニング [オーラル トレーニングCD]』

「〈音楽家の耳〉トレーニング」教育法の授業への導入

「〈音楽家の耳〉トレーニング」システムは、エリザベト音楽大学の全学生が必修科目として受講しています。
また、選択科目としても位置づけています。

必修科目

音楽理論Ⅰ～Ⅱ
ソルフェージュⅠ～Ⅱ

選択科目

ソルフェージュⅢ
和声学
対位法
即興演習

必修科目のクラス編成は、第3の特色を活かして、学生を習熟度別に分けるだけでなく、タイプ別に分け授業を行っています。同じ問題点を持つ学生を、少人数のクラスに分けることにより、きめ細やかな指導が可能となっています。

本学での授業「音楽理論Ⅰ～Ⅱ」「ソルフェージュⅠ～Ⅱ」

科目名は、音楽理論、ソルフェージュに分かれていますが、実際の授業ではこれらを統合した〈音楽家の耳〉トレーニングのシステムに沿った授業を行っています。

学生のクラス分け
- 習熟度別に分ける
- タイプ別に分ける
  - 音楽理論が得意…
  - ソルフェージュが不得意…

→ 同じ問題点を持つ学生を少人数のクラスに分けることにより、きめ細やかな指導が可能

「〈音楽家の耳〉トレーニング」グレード別課題項目表

Ⓐ楽譜を見ない、耳のみの訓練によるもの（Aural Training）
Ⓢ楽譜を見るもの（Score）

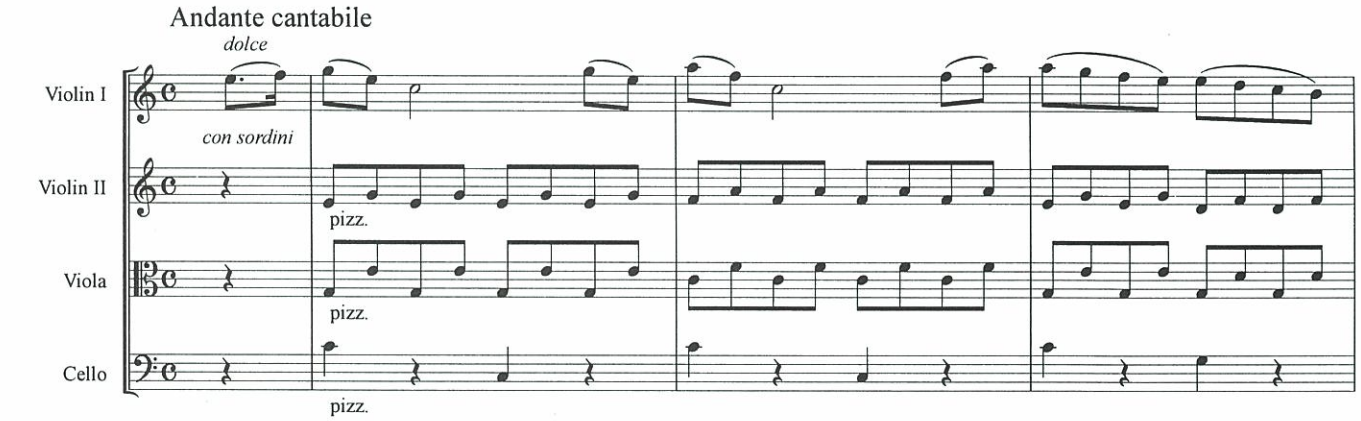
グレード	課題内容									
1	拍子をたたく Ⓐ	リズムをたたく Ⓐ	真似して歌う Ⓐ							
2	拍子をたたく Ⓐ	リズムをたたく Ⓐ	真似して歌う Ⓐ	視唱 Ⓢ		曲の表情を感じる Ⓐ				
3・4		リズムをたたく Ⓐ	リズムパターンをたたきながら真似して歌う Ⓐ	視唱 Ⓢ	覚えて演奏する Ⓐ	曲の表情を感じる Ⓐ	違いを見つける（音高の違いに気づく） Ⓐ			
5		リズムをたたく Ⓐ	リズムパターンをたたきながら真似して歌う Ⓐ	視唱 Ⓢ	覚えて演奏する Ⓐ	音楽の表情と形式の理解 Ⓐ	違いを見つける（音高、リズム、和音等の違いに気づく） Ⓐ			
6・7			2声の下のパートを歌う Ⓢ	視唱 Ⓢ	覚えて演奏する Ⓐ	音楽の表情と形式の理解 Ⓐ		聴音	即興 Ⓐ	
8・9			3声の中か下のパートを歌う Ⓢ	視唱（強弱等の表情をつけて） Ⓢ		音楽の表情と形式の理解 Ⓐ		聴音	即興 Ⓢ	移調 Ⓢ
10				視唱（強弱等の表情をつけて） Ⓢ	2声の記憶唱と記憶演奏 Ⓐ	音楽の構造と様式の理解 Ⓐ		聴音	伴奏の即興 Ⓢ	移調 Ⓢ
11・12				視唱（強弱等の表情をつけて） Ⓢ	2声の記憶唱と記憶演奏 Ⓐ	音楽の構造と様式の理解 Ⓐ	楽譜との相違点の認識 Ⓢ	聴音	伴奏の即興 Ⓢ	
13					3声の記憶唱と記憶演奏 Ⓐ	音楽の構造と様式の理解 Ⓐ	楽譜との相違点の認識 Ⓢ		自由即興 Ⓢ	通奏低音 Ⓢ
14						音楽の構造と様式の理解 Ⓐ	楽譜との相違点の認識 Ⓢ		自由即興 Ⓢ	通奏低音 Ⓢ

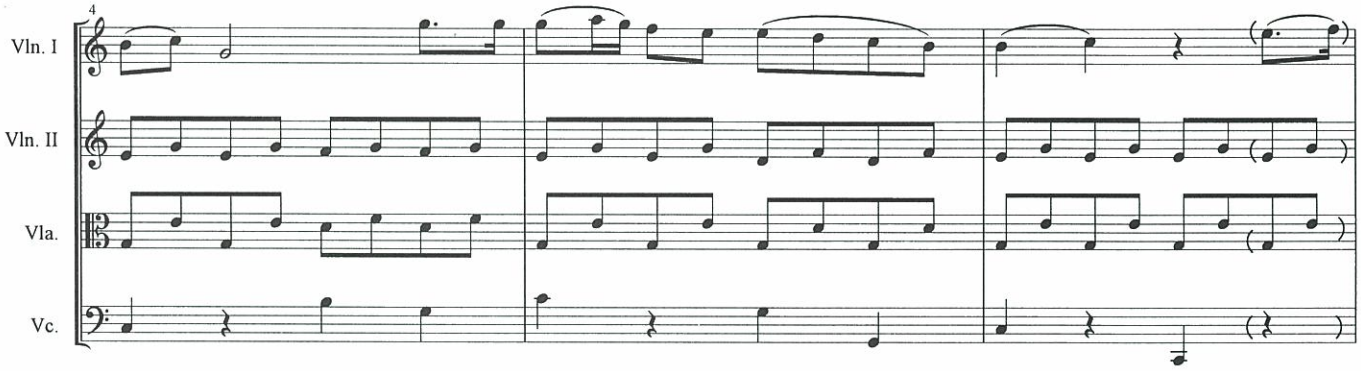
本学での授業例
(1年次「音楽理論I・ソルフェージュI」

タイプの違うクラスで同じ課題曲を使用した場合

- **Aタイプ** 入学前にある程度学習していた学生
- **Bタイプ** 入学前に学習経験のなかった学生
- **Cタイプ** 入学前にある程度学習しているが、聴音が苦手な学生

課題曲：J. Haydn（1732-1809）：弦楽四重奏曲 ヘ長調「セレナード」Op. 3-5 HobⅢ：17 第2楽章　［特色1：音楽作品を教材として使用］





1つの課題曲を使用して、ソルフェージュ（聴音、視唱）と音楽理論（楽語、音楽史、分析）を総合的に学習することが可能です。

聴音

CDを用いて行います。ピアノ演奏用に編曲された物ではなく、原曲（この場合、弦楽四重奏の演奏）を用います。音を書き取るトレーニングを行うだけでなく、音楽理論の学習も含め、総合的にトレーニングします。クラスによっては、「〈音楽家の耳〉トレーニング」のトレーニング項目を取り入れて、聴音の手助けをします。

「C dur（ハ長調）、4分の4拍子、アウフタクトと6小節。まず一度聴いて、テンポ、拍子を把握しなさい。
旋律とバス、和音記号を書き取りましょう。」

拍子を捉える
（曲を聴きながら、拍子をたたくなどして拍子を捉える。）

Aタイプ
- 和音記号・和音の機能を書き取る
  終止形を捉える
- 旋律を覚えて歌う
  旋律を書き取る
- バスを覚えて歌う
  バスを書き取る

Bタイプ
- 旋律を覚えて歌う
- 和音記号・和音の機能を書き取る
  終止形を捉える
- 終止形と和音記号をヒントに旋律を書き取る
- 終止形と和音記号をヒントにバスを書き取る

Cタイプ
- バスのリズムをたたく
  バスのリズムを書き取る
- 和音記号・和音の機能を書き取る
  終止形を捉える
- 和音記号をヒントにバスを書き取る
- 旋律のリズムをたたく
  旋律のリズムを書き取る
- 旋律を覚えて歌う（2小節ずつ）
  旋律を書き取る（2小節ずつ）

「〈音楽家の耳〉トレーニング」の項目―「拍子をたたく」「リズムをたたく」「覚えて演奏する」「音楽の表情と形式の理解」「聴音」を取り入れています。
グレード1～6の項目を網羅しています。

音楽の表情と形式の理解

「〈音楽家の耳〉トレーニング」システムの特徴的な項目です。
［特色1：音楽作品を教材として使用］［特色2：楽譜を用いないトレーニングを重視］
楽譜を用いずに音楽の表情（強弱、アーティキュレーションなど）の特徴や変化、楽器編成、形式を耳のみで捉えるトレーニングです。楽典、楽式の知識を実際の音楽と結びつけて学習します。

Aタイプ **Bタイプ** **Cタイプ** 同じ質問（「〈音楽家の耳〉トレーニング」グレード3～10までの出題内容を網羅しています。）

① この曲の冒頭にAndante cantabileと書いてあります。聴いた音楽をヒントに意味を答えなさい。
② dolce の意味を答えなさい。
③ この曲の編成を答えなさい。
④ 旋律を演奏している弦楽器の奏法を答えなさい。
⑤ 旋律以外の弦楽器の奏法を答えなさい。
⑥ 音楽史上どの時代の作品だと思いますか。その時代の作曲者名を数名答えなさい。誰の作品だと思いますか。

視唱と和声分析

視唱は、ピアノ伴奏にあわせて歌います。拍子感、フレーズ感を伴って歌うことを重視しています。和声分析することにより、和声進行、和音の機能を理解し、音楽の響きを感じてより音楽的に歌うことを目指しています。

Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
バスのパートを歌う	旋律を歌う	和声分析する
↓	↓	↓
和声分析する	バスのパートを歌う	楽譜を見ながら原曲を聴く
↓	↓	↓
和声進行を感じながら旋律を歌う	和声分析する	和声進行を感じながらバスを歌う
↓	↓	↓
内声（ヴァイオリンⅡ、ヴィオラ）のパートを歌う	和声進行を感じながら旋律とバスを歌う	和声進行を感じながら旋律を歌う
↓	↓	↓
楽譜を見ながら原曲を聴く	旋律とバスのパートに分かれて歌う	
↓	↓	↓
楽譜を見ながらそれぞれのパートを意識して聴く	内声（ヴァイオリンⅡ、ヴィオラ）のパートを歌う	楽譜を見ながら内声（ヴァイオリンⅡ、ヴィオラ）のパートを聴く
↓	↓	↓
旋律とバスのパートに分かれて歌う 全てのパートに分かれて歌う	楽譜を見ながら原曲を聴く	内声（ヴァイオリンⅡ、ヴィオラ）のパートを歌う
↓	↓	↓
ピアノに編曲して演奏する	バスパートのリズムをたたきながら旋律を覚えて歌う	

「〈音楽家の耳〉トレーニング」の項目―「視唱」「2声の下のパートを歌う」を取り入れています。
グレード2～7の項目を網羅しています。

「〈音楽家の耳〉トレーニング」特色と有効性

「〈音楽家の耳〉トレーニング」教育法は、総合的音楽能力を育成するためのシステムであるので、このシステムを使用して学習するために、特別に課題を用意する必要はありません。手元にあるＣＤなどの音源、あるいは専門実技で取り組んでいる曲も、課題として用いることができます。
このシステムで得た総合的音楽能力は、専門実技を演奏する際におおいに活かすことが可能です。

ELISABETH
University of Music

平成19年度文部科学省 特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）
「〈音楽家の耳〉トレーニング教育法の開発」

エリザベト音楽大学国際シンポジウム

〈音楽家の耳〉トレーニング
――新たなソルフェージュ教育に向けて――

第1日目 2008（平成20）年9月14日（日） 13:00～17:15

第2日目 2008（平成20）年9月15日（月・祝） 10:00～15:40

会場 エリザベト音楽大学 ザビエルホール
〒730-0016 広島市中区幟町4番15号

第1日目　9月14日（日）

総合司会：川野祐二（エリザベト音楽大学教授）

12:30　**受付開始**

13:00～13:05　**奏楽**

13:05～13:15　**開会挨拶**　中村英昭（エリザベト音楽大学 学長）

13:15～13:45
基調講演
「音楽する耳を作る―音楽基礎教育と音楽活動の現場から―」
近藤譲（作曲家、お茶の水女子大学大学院教授、『〈音楽家の耳〉トレーニング』監修者）

13:45～14:05
「〈音楽家の耳〉トレーニングについて」
田中晴子（エリザベト音楽大学専任講師）

司会：片桐功（エリザベト音楽大学教授、研究科長）

14:15～15:45
パネリストによる講演（同時通訳付）

講演Ⅰ
「フォルマシオン・ミュジカルとは―その成り立ちと意義―」
野平多美（作曲家、音楽評論家）

講演Ⅱ
「耳による訓練（Aural Training）―音楽的理解と創造性を発展させながら―」
クリストファー・ケイン（トリニティ・カレッジ・オブ・ミュージック学部長、国際交流部長）

講演Ⅲ
「地歌・箏曲における口頭伝承の役割」
米川敏子（地歌・箏曲演奏家、研箏会五代目家元、くらしき作陽大学特任教授）

……< コーヒーブレーク　約20分 >……

16:05～17:05

講演Ⅳ
「中国の芸術学院によるソルフェージュのグレード制度について」
賴群（四川音楽学院作曲科准教授（ソルフェージュ））

講演Ⅴ
「日本とアジアの音楽から〈音楽家の耳〉を考える」
徳丸吉彦（聖徳大学教授、放送大学客員教授、お茶の水女子大学名誉教授）

17:05～17:15　**総括**

17:45～19:45　**情報交換会**

第2日目　9月15日（月・祝）

総合司会：伴谷晃二（エリザベト音楽大学教授、学部長）

10:00～11:30
「〈音楽家の耳〉トレーニング」教育法による
模擬授業と質疑応答
岡田陽子（エリザベト音楽大学専任講師）
平田裕子（エリザベト音楽大学専任講師）

13:30～15:30
パネルディスカッション（同時通訳付）
「〈音楽家の耳〉トレーニング
―新たなソルフェージュ教育に向けて―」

パネリスト（五十音順）
クリストファー・ケイン
徳丸吉彦
野平多美
米川敏子
賴群
伴谷晃二

司会
近藤譲

15:30～15:40
閉会挨拶
ローレンス・マクガレル（エリザベト音楽大学理事長）

お問い合わせ先
エリザベト音楽大学〈音楽家の耳〉トレーニング研究所 TEL 082-555-3778
または エリザベト音楽大学 学事部企画 TEL 082-221-0918（代） FAX 082-221-0947
E-mail kikaku01@eum.ac.jp